

# 足元見直し

## 健やかに

### 異常放置なら指壊死も

巻き爪や外反母趾ばいしなど足に関する病気を早期発見しようと、九州の医師や靴販売店、フットケアサロンが結集したNPO法人「足もと健康サポートねっと」が、この夏から活動開始した。足元のささいな病気はつい見逃しがちだが、感染症を引き起こしたり、足の血行が悪くなったりするケースも。業種の枠を超えた専門家が足並みをそろえ、「足元からの健康づくり」を呼び掛けている。



巻き爪患者を治療する竹内一馬医師。放置すれば感染症などにつながるリスクもある

### 医師や靴店 連携して啓発

ねっとは今年6月に発足。那珂川病院(福岡市南区)血管外科部長の竹内一馬さん(38)が代表となり、福岡市の婦人靴販売店、熊本県の義肢装具会社やフットケアサロン、佐賀大医学部の医師ら約20人で活動している。「足」にかかわる専門家のNPOは、全国的にも珍しいという。

竹内さんによると、高齢者や糖尿病患者にとって、巻き爪や外反母趾は感染症や血流不全を発症するリスクになる。ところが、足にしびれや腫れの初期症状が出ても「靴が合わないだけ」と思い込み、病院でなく靴店に相談する人が多い。血行不全が悪化して足の指先

が壊死くわいじしかかり、切断する寸前まで放置するケースもあるという。

「靴店やフットケアサロンは、足の予防医療の最前線。店員が医学的な知識を持てば、病気の早期発見につながる」。竹内さんは、足に関係する業者や医師の横のつながりを強化しようと、2009年から勉強会を重ねてきた。

ねっとでは定期的に会合を開いて会員が医学的な知識を共有、対応した

患者の症状についても情報交換している。今後、足の健康への関心を高め、もたらう市民向けウォーキングイベントも計画するという。

9月には、奈良県で開かれる日本靴医学会で、九州発のNPOの取り組みを報告する。竹内さんは「足の健康は全身の健康維持の基礎。足の業界関係者がチーム医療の一員となり、足元から健康を支えたい」と話している。(鶴善行、山下真)